



平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。弊所では、ご縁を頂いたお客様や関係先様に対し、価値ある情報を提供したいと考え『さくマガ!』の発行を開始しました。

また、弊所の動向や私自身の事柄をお伝えすることで「貴社にとって身近な行政書士」となりたいと思っております。

ぜひ、ご覧頂けますと幸いです。

最新
news

積載制限を緩和

今年5月、道路交通法の改正により積載制限が緩和されます。改正のポイントや注意点をお伝えします。

ポイント1

自動車の積載制限を緩和し、幅及び長さをそれぞれ車両の1.2倍まではみだしであれば制限外積載許可申請が不要となる（現行法上は長さ1.1倍まで、幅は車幅まで）。

ポイント2

当制度改正を含む道路交通法は2022年5月13日施行予定。

今回の道路交通法の改正により、運送事業者が行っていた手続きの負担が大幅に削減されます。ただし、注意すべき点が2点あります。

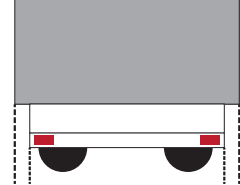
1点目は、幅に関して左右いずれも1.1倍を超えてはみ出すことはできないことです。例えば、車幅250cmの車両の場合は左右に25cmずつはみ出し、合計で300cmまで制限外積載許可は不要となりますが、左に30cm、右に20cmのはみだしは

認められません。この場合左側に関しては車幅の1.1倍超のはみだしが生じているためです。

2点目は特車申請の要件が緩和された訳ではないということです。今回の法改正は道路交通法であり、特車申請の根拠法令となる道路法や車両制限令に規定する一般的制限値に変更はありません。幅に関して2.5mを超える場合は引き続き特車申請が必要となります。

周囲の交通に影響のない範囲で緩和

現行は、はみ出す際に制限外積載許可が必要



左右合計で車幅の1.2倍まではみ出せるように



左右いずれかで1.1倍を超えてはならない

出典：物流ニッポン 2021年11月19日号

※上記記事に関して、ご不明点等ございましたらお気軽に佐久間までお問い合わせください。

事務所
TOPIC

事務所内に神棚を設置



家内安全、商売繁盛、無病息災などを祈願するため、事務所内に神棚を設置しました。多くの神棚は三社造りという構造になっており、中央の扉に配置する神宮のお神札は「神宮大麻」と呼ばれます。これは、お正月を迎える前に伊勢神宮から日本全国の神社を通して配られるものです。向かって右側には地元の氏神様のお神札、左側には崇敬している神社のお神札が入ります。

さいたま市中央区に本拠を置く弊所の氏神様は武蔵一宮氷川神社のお神札となります。こちらは全国にある氷川神社の総本山としても知られ、毎年の初詣参拝者は200万人にも上る、全国初詣参拝者ランキング6位の大きな神社です。

左側の崇敬している神社に関しては、現時点で未定です。商売繁盛、勝負運にご利益がある神社ご存じでしたら是非佐久間までご教授ください。事務所内に神様を招き入れ、さらに業務に精進していきたいと考えております。



佐久間の部屋 運送業界のDX推進を支援します！

私、佐久間翔一は、2021年10月1日にグローバルナレッジ株式会社（本社：横浜市）の取締役副社長に就任いたしました。グローバルナレッジは、運送事業者のIT化支援、DX推進支援に特化した会社です。



グローバルナレッジ株式会社
<https://www.globalkledge.com/>

取締役就任までの想い

これまで行政書士として皆様とお話するなかで、運賃交渉、業務効率化、労務管理という話題が多くあがりました。これらを解決する手段として、「業務のIT化」「DXの推進」というキーワードは避けては通れません。一方、行政書士という職業上、法務サービスのご提案しかできず、広く皆様のお役に立つことが叶わないという葛藤もありました。そこで、『法務サービスの枠を超えて、未来の運送業界に役立ちたい』と思うようになり、この度の役員就任に至りました。

グローバルナレッジは、IT化やDXの推進提案だけでなく、IT人材育成、DX推進担当人材育成まで行える点が同業他社との大きな違いです。新しいシステムを導入したが使いこなせない、推進できる人材がないというのが運送業界でDXが進まない大きな原因であると考えたためです。

今後は、IT化・DXの領域においても皆様のお役に立ちたいと思っております。是非、お気軽にご相談ください。

特集 DXとIT化の違いって？

運送業界では「DX」という言葉がにわかに盛り上がりを見せています。NEWSや新聞で躍る「DX」という言葉の意味をここでは正しく理解し、知識の一助となればと考えています。

DXとは？

DXとはデジタルトランスフォーメーションの略で、デジタル技術とデータ活用によって社会・産業・生活のあり方を変革し、既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすことです。

DXとIT化の違いとは？

まずは業務のIT化について考えてみましょう。業務のIT化とは、IT技術やデジタル技術を活用することで、アナログ作業やツールをデジタルに変換し、業務効率化やコスト削減を目指すことです。具体的には、デジタコを導入する、日報を電子化する、業務工程にRPAロボットを導入する等があげられます。一方、DXとはこれらITツールから得られるデータを活用し、業務を変革することを意味します。たとえば、デジタコから得られるデータを基に1車両あたりの収益、1運行あたりの収益等を計算し、不採算案件を浮き彫りにすることで、荷主に対

して運賃交渉までもっていくというイメージです。その他にも、運行データを基にした時期ごとの運行量予想や、配送ルート計算による実車率の向上など、考え次第で可能性は広がります。このようにDXは単純な改善、省人化・自動化・効率化だけでなく、収益の増加・新しいビジネスチャンス発見に役立てることまでを指すのです。

DXにはステップが大切

DXは一朝一夕に実現できるものではありません。ステップアップを

通じて徐々に達成するのが良いでしょう。まずはDXによって何をを目指すのかをはっきりさせましょう。収益の増加なのか、労務管理なのか、いずれにしても目標をまず定めなくてはスタートできません。次に目標を達成するためにはどのようなデータ収集が必要なのかを検討し、データ収集のためのIT化を行います。下図のようにまずは業務のデジタル化・電子化が必要になってくるのです。その後、データ活用の段階に入って初めてDXによるイノベーションが実現します。

